

拠点名称：ネイチャーポジティブ成長社会実現拠点

代表機関	東北大学	プロジェクトリーダー	近藤 倫生 東北大学 大学院生命科学研究科 教授
参画機関	(大学等) かずさDNA研究所、京都大学、筑波大学、東邦大学、北海道大学 (企業等) 株式会社佐久、東北緑化環境保全株式会社、日本郵船株式会社、一般社団法人コンサベーション・アライアンス・ジャパン、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン、一般社団法人サステナビリティセンター、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合、公益社団法人日本山岳会、NPO法人FIRST ASCENT JAPAN.、宮城県山岳連盟、神奈川県環境科学センター、南三陸町自然環境活用センター		

プロジェクトの概要

劣化の進行する自然・生物多様性を2030年までに回復基調に逆転させる「ネイチャーポジティブ」は、社会の持続的発展に不可欠な国際共通目標である。本プロジェクトでは、生物多様性ホットスポットである我が国の豊かな自然を活かし、自然を回復させることで成長発展する新しい自然共生型社会システムの構築を目標とする。自然はあらゆる産業・社会発展を支える資本であり、自然を適切に管理し、豊かにすることで社会はさらに発展できる。その実現の鍵は、巨大な複雑系である自然を適切に社会・経済活動に組み込む「IoN (Internet of Nature)」の開発・整備と社会システムの再構築にある。予測困難な自然を予測可能に変え、自然と人間社会を調和的に接続するため、(1)誰もが生物多様性情報を獲得・利活用できるインフラ構築、(2)生態系サービスの増強とリスク低減を実現する技術開発、(3)マルチステークホルダーによる自然自治管理支援システム開発の三つの科学技術目標に取り組む。これにより、地域住民の連携による、科学に基づく責任ある自然の自治管理を実現し、自然資本の持続的な最大利活用を達成する自律分散型の自然共生社会への変革を支える。

SDGs







ネイチャーポジティブ成長社会実現拠点

ビジョン：自然を回復させることで成長発展する自然共生社会の実現

プロジェクトの概要

ターゲット 1. 誰もが生物多様性情報を獲得・利活用できるインフラ構築	2. 生態系サービスの増強とリスク低減を実現する技術開発	3. マルチステークホルダーによる自然自治管理支援システム開発
研究開発課題 課題1 生態系観測手法開発	課題2 生物多様性情報システム開発	課題3 生態系予測モデリング技術開発
社会課題テーマ 1. 環境価値取引@南三陸町 2. 再生事業評価@神奈川県 3. 自然自治管理@山岳域 3地域における具体的社会課題と研究開発課題を連携させることでバックキャストを実質化・検証		



代表機関
東北大学

総長

産学連携担当理事

PL 近藤倫生
院生命科学・教授

副PL 藤田香
日経BP・日経ESGシニアエディタ

拠点運営機構

マネジメント部門



主催
産官学民の連携による
環境DNA観測網

産官学の多様な参画機関+市民

ANEMONEコンソーシアム アースウォッチジャパン・日本郵船(株) (株)カクコム・(株)東北緑化環境保全 かずさDNA研究所・JaLTER・JAMBIO 日本生態学会・環境DNA学会・神奈川県 等	かずさDNA研究所	京都大学	筑波大学
東北緑化環境保全株式会社	東邦大学	北海道大学	株式会社佐久
日本郵船株式会社	認定NPO法人 アースウォッチ・ジャパン	(一社)コンサベーション・アライアンス・ジャパン	(一社)サステナビリティセンター
ジャパンプルーエコノミー 研究技術組合 [JBE]	NPO法人 FIRST ASCENT JAPAN.	神奈川県 環境科学センター	南三陸町 自然環境活用センター